

第7回病診連携委員会要録

日 時 平成21年11月30日（月） 午後7時30分
場 所 浪速区医師会 会議室
出席者 浪速区医師会 : 8名
愛染橋病院 : 2名
大野記念病院 : 3名
四天王寺病院 : 2名
多根総合病院 : 2名
富永病院 : 3名
浪速生野病院 : 2名
かんでんジョイライフ 1名
関西システムソリューションズ 1名

議 題

1. 第6回病診連携委員会報告について（資料1）

前回委員会での議事内容の報告と確認が行われた。

2. 病診連携委員会のアンケート結果について

各アンケート結果は次のとおり。

質問1 前回の決定事項に対する意見や補足事項について

- ・ この委員会で、これから検討してはどうかと思われる議案を積極的に提示してほしい。
- ・ 前回の議事録は、事前に配布されており委員会では要点の確認だけにする。
- ・ 一次受け入れ病院から二次病院への紹介の際は、可能な限りブルーカードをFAXする。
- ・ 委員会の開催間隔は、前回の決定どおり、当面は毎月行うこととする。

質問2 医師、病医院とケアマネ、介護関連事業所との信頼関係について

- | | |
|-----------------|-----|
| A 80－100%できている。 | 0件 |
| B 50－80%できている。 | 10件 |
| C 30－50%である。 | 4件 |
| D 30%以下である。 | 0件 |

質問3 両者の信頼関係の改善の方法について

両者間の連絡カードを作って患者に持参してもらう、患者の受診に介護サイドの関係者も同行する、両者が参加できる会議を開催するなどの提案があった。しかし、これまで両者の信頼関係について意識したことがないという意見や、ケアマネ間の力量の差を指摘する意見もあり、信頼関係を築くためには、まだ色々な改善点があるようなので、少しずつ検討していくこととした。

また、病診連携委員会への介護サイドの参加は、現状どおり常時ではな

く必要に応じて(介護に関連した議案の際に)参加してもらうこととした。

次回の委員会は、浪速区地域包括より他市での入退院時の病診介護の連携の情報があるので紹介したいとの連絡があったため、参加を予定している。

質問4 企業の提案する患者情報のデータベース化とその共有について

ほぼ全ての委員が必要性感じており、賛成意見であった。具体的な活用方法などを前向きに検討していくことで一致した。

3. ブルーカードの経過について

11月30日の時点ではまだ登録件数はゼロである。積極的に診療所に働きかけて登録を促していき、1月25日開催の次の委員会では経過報告ができるようにしたい。また、在宅患者のみではブルーカードの活用が少ない場合は、一般の重症患者まで適応拡大することも視野にいれたい。

4. 大阪浪速診療情報共有プロジェクトについて

かんでんジョイライフの秋山昌広氏と関西システムソリューションズの山本浩司氏を招き、「ナービス24」の概要と「ナービスDB」を使った地域医療連携のプレゼンテーションが行われた。

今後、医師会へ送られてきたブルーカードは、一次受け入れ病院へ直接FAXするだけでなく、大阪浪速診療情報共有プロジェクトとして、そのブルーカードをPDF化し、ナービスDBへアップロードして、実用化に向けた取り組みや問題点などを検証していく予定である。

次回会議予定 平成22年1月25日(月) 午後7時30分より